

# 競技注意事項

## 1 競技規則について

- (1) 本大会は、2025年度日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項によって行う。
- (2) 引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は、校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（地方公務員法第22条の2に示された者）も可とする。
- (3) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

## 2 競技者の招集について

- (1) 競技者招集所は、正面玄関外側の100mスタート方向に設置する。
- (2) 招集時間

| 競技種目                | 招集開始時刻    | 招集完了時刻    |
|---------------------|-----------|-----------|
| トラック競技予選            | 競技開始30分前  | 競技開始15分前  |
| トラック競技決勝            | 競技開始20分前  | 競技開始10分前  |
| 棒高跳                 | 競技開始120分前 | 競技開始110分前 |
| 走幅跳・三段跳・女子円盤投・ハンマー投 | 競技開始60分前  | 競技開始50分前  |
| 走高跳・男子円盤投・やり投・砲丸投   | 競技開始70分前  | 競技開始60分前  |

- (3) 招集の手順

- ① 競技者または代理人が招集所の競技者係から確認（招集）を受け、各競技の場所で最終点呼を受ける。
- ② 代理人による最終点呼は認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を最初の種目の招集時に競技者係に申し出ること。
- ③ 棄権をする競技者は、棄権届用紙（招集所に準備）に記入し、招集開始時刻までに招集所に提出すること。
- ④ リレーのオーダーについては、メンバー及びオーダーの変更の有無に関わらず、各ラウンド毎に招集完了時刻の1時間前までにオーダー用紙（招集所に準備）を招集所競技者係に提出すること。また、招集は規定どおりに受けること。オーダー用紙提出後の変更はできない。怪我等の特別な理由がある時は本部へ申し出る。  
大会のドクターかトレーナーの診察を受け、変更を認めることがある。招集時間完了後は変更できない。  
リレー種目で大会ドクターかトレーナーの診察を受け変更を認められ不出場になった選手は、翌日に大会へ参加する場合、再度大会ドクターかトレーナーの診断を受け出場する事が出来る。
- ⑤ リレーのエントリー以外からリレー出場の場合は、オーダー用紙の氏名の右にエントリーした他種目名を記入すること。
- ⑥ 混成競技の招集は、両日共に第1種目は競技者または代理人が招集所の競技者係から確認（招集）を受け、る。第2種目からは、現地で混成係に招集（トラック競技20分前、フィールド競技40分前）を受ける。  
棄権するときも必ず現地で申し出る。

## 3 アスリートビブスについて

- (1) 出場者はアスリートビブスを胸部と背部につけて出場しなければならない。ただし、跳躍競技の競技者は、胸部または背部に付けるだけでもよい。
- (2) トラック競技者は、招集所で競技者係から渡された腰ナンバーカードを右腰やや後方につけること。

## 4 競技について

- (1) 走高跳、棒高跳の練習及び競技中のバーの上げ方は、次のとおりとする。ただし、安全面・気象条件等により変更することもある。  
男子走高跳 1.70・1.85(練習) 1.70 1.75 1.80 1.85 1.88 (以降3cm)  
女子走高跳 1.30・1.45(練習) 1.35 1.40 1.45 1.50 (以降3cm)

男子棒高跳 2.80・3.50・4.30(練習) 2.80 3.00 3.20 3.40 3.60 3.70 (以降10cm刻み)

女子棒高跳 2.00・2.50・3.30(練習) 2.00 2.20 2.40 2.60 2.70 (以降10cm刻み)

混成競技走高跳 A・Bピットの選択は、競技者が当日現地にて行う。

男子八種 Aピット 1.55(練習) 1.55～(5cm刻み)～1.70 1.73(以後3cm刻み)

Bピット 1.25(練習) 1.25～(5cm刻み)～1.70 1.73(以後3cm刻み)

女子七種 Aピット 1.30(練習) 1.30～(5cm刻み)～1.40 1.43(以後3cm刻み)

Bピット 1.00(練習) 1.00～(5cm刻み)～1.40 1.43(以後3cm刻み)

- (2) 当該競技に参加する競技者以外は、競技場内に立ち入らないこと。
- (3) スパイクシューズのピンの使用は9mm以下。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。
- (4) トラック競技において、セパレートレーンを使用する種目については、フィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- (5) 長距離・競歩種目については、気象の状況により給水を設けることがある。
- (6) 4×400mリレーの第3・4走者は、競技役員の指示に従い前走者が200mスタート地点を通過した順位で、内側から並び待機する。その後に順位に変動があっても並び順を変えてはならない。尚、バトンを受け渡した後の走者は、後続の他チーム走者の走路を妨害しないように留意すること。
- (7) リレーに出場のチームは、原則同一のユニフォームを着用する。ただし服装に関しては、色やデザインが同様に同一のチームと判別可能であれば、形状が異なる衣類を着用してもよい。
- (8) 通信機器(携帯電話・トランシーバー等)、ラジオ、音楽プレーヤー等の競技場内への持ち込みは禁止する。競技場内に持ち込む荷物の中にも入れないこと。
- (9) 次のトラック競技は、スタート後下記の時間で競技を打ち切る。ただし、この時間に水濠を通過した選手は、そのままフィニッシュラインへ向かってよい。

男5000mW：35分00秒 女5000mW：40分00秒

## 5 競技の抽選及び番組編成について

- (1) トラック種目における決勝へのプラス進出者については、当該競技者の最下位に同記録が複数出た場合、写真判定により0.001秒単位の時間を判定して決定する。それでも決まらない場合は「同着」としてレーンに余裕がある場合には、次のラウンドに進出する。レーンに余裕がない場合は抽選とする。ただし、1500m以上の長距離種目での同記録者(0.001秒単位の時間まで同記録)は全員次のラウンドに進出できる。
- (2) 抽選のアナウンス後5分経過しても抽選にこない場合は本部が代理で行う。対象者は特にアナウンスに注意すること。抽選は本部の番組編成席で行う。

## 6 競技用具について

- (1) この競技会で使用する用器具は、主催者で用意した競技場備え付けのものを使用しなければならない。
- (2) 棒高跳用ポールは個人持参の物の使用を認める。やりについては、個人持参のものを主催者で検査のうえ使用を認める。ただし、共通使用とする。
- (3) やりの検査は、第4ゲート用器具倉庫にて時間(通告する)を決めて行う。

## 7 練習について

- (1) フィールド種目の練習は、招集後に本競技場内で行う。
- (2) 投てき練習場での練習は、ハンマー投と女子円盤投のみ9月20日(土)の招集開始時間まで認める。  
投てき練習場での練習に際しては引率者立ち会いのもと、事故防止に充分注意し練習すること。投てき練習場へは、関係者以外は立ち入らないこと。ハンマー投と女子円盤投の本競技場での練習は、公式練習2回のみ行う。
- (3) 競技場内の練習については事故防止のため、すべて競技役員の指示に従うこと
- (4) 補助競技場でメディシンボールなどの投てき物を使った練習は禁止する。

## 8 表彰について

- (1) 第3位までの入賞者に表彰を行う。決勝終了後、被表彰者待機場所待機すること。
- (2) 学校対校は総合の部・トラックの部・フィールドの部のそれぞれ第3位までに賞状を渡す。顧問は表彰に賞状を受け取りに来ること。
- (3) 入賞者の得点は、1位8点、2位7点、以下6・5・4・3・2・1点とする。

## 9 新人九州大会について

- (1) 本大会において上位3位以内の競技者については、10月10日（金）～12日（日）沖縄県総合運動公園陸上競技場で開催される全九州新人陸上競技対校選手権大会の出場権を得る。ただし、棒高跳・走高跳については上位3位までの競技者3名が出場権を得る。なお、各種目共、同一校においての出場者は2名までとする。
- (2) 九州大会出場資格を得た学校は、大会本部で必要書類を受け取り所定の手続きを行う。「仮申し込み書」は本大会終了後速やかに（大会中でも可）大会本部へ提出する。なお、正式申込書等については「仮申し込み書」に添付されている書類を確認すること。

## 10 その他

- (1) 記録については通告を行う。
- (2) 各校の応援用横断幕は、メインスタンドには張らないこと。のぼり旗についてはメインスタンド最上部後方フェンスにくくりつけてもよい。
- (3) フィールド競技を行っている際、その付近での応援は配慮をもって応援する。
- (4) 更衣室は100mスタート地点側のみ使用できる。100mゴール地点側更衣室は補助員待機場所として使用する。
- (5) ゴミについては、各学校・個人で責任を持って持ち帰ること。
- (6) ビデオ等を見せる場合は、安全且つ競技運営に支障のない場所で各チームが準備したひもやかご等の道具を使って録画機器を受け渡しすることができる。ただし、安全には十分配慮する。また、機器の破損等が生じた場合、主催者は一切の責任を負わない。なお、機器の投げ渡しや身を乗り出しての危険な状態での受け渡しは認めない。
- (7) 各校の控え所については、譲り合って使用し、必要以上の広さを確保専有しないこと。
- (8) 各校の控え所の目印等で、紙のガムテープを床に貼らないこと。
- (9) 雨天練習場の各校控え所としての使用は禁止する。